

2023年間報告書

日頃より白山ワールドルフコミュニティの活動にご関心をお寄せいただき、また温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。皆様へ、心から感謝申し上げます。ここに、今年一年の活動を皆様にご報告させていただきます。

現在行っている様々な活動は、北陸にはまだない「シュタイナー学校」をつくり、運営していくための土台づくりと考えて試行錯誤をしながら継続しています。

活動三年目となる2023年は、金沢の一軒家を中心に、幼児から大人まで、多くの体験から学び、育ち合う輪が少しずつ動き出しました。

ぐらりと一年が廻る中、あたたかい環境の中で、子ども達の目をみはるような成長・変化を見せていただきました。シュタイナー教育で考える特徴的な、7年周期で人間の成長を捉え、発達段階に見合った教育を受けられることの何とありがたいことでしょうか！

その時々、その子その子に相応しい環境を整えてもらえる場が、ここ金沢にあることに、またその必要性が少しずつ認められつつあることに、感慨もひとしおです。

「生きづらさを生きる」ことが当たり前とされる現代で、子どもが子どもらしく生きてよい環境を、私たち大人の一人ひとりが、両手の届く範囲から創っていきける力を持てますように。そして、子ども達が、生まれ持ったギフトを生かせる社会となっていけますように。2024年からも、この学びの輪が広がりますように。



12月のアドベントガーデンの様子。クラス参加家族らと。

なお、この活動は、親と教師が共に子どもの育ちを支える柱となることを大切にしています。様々な形でのご参加を心より歓迎します。

活動の継続と発展に向けて、皆様のご協力・ご支援を、末長くよろしくお願いいたします。

(文責：代表理事／矢後千夏)

金のいずみこども園開園への取り組み

シュタイナー教育を取り入れた幼児教育の普及を目指し、石川県初のシュタイナー子ども園が2023年春に開園予定であることを受け、準備会が立ち上がりました。この準備会では、シュタイナー教育の理念と、温かく家庭的である環境に基づいた幼児教育を提供したいという願いが共有され、有意義な話し合いが展開されました。

開園に向けての準備は、多くの有志の方々の協力のもと、着実に進められています。目標の開園日である9月を目指し、砂場の完成やさつまいもの植え付け、10脚の子ども椅子の手作りなど、共に手を動かして準備を進めています。

また、シュタイナー教育の普及を目的として、井藤元さんによる講演会が2回開催され、多くの方が参加しました。6月には石川県での対面講演、7月には「自由」をテーマにしたメルヘンを通して、シュタイナー教育について深く理解する機会となりました。

これまでも、2度のオープンハウスやメディア掲載など、多くの方々から支援をいただけてきました。しかし、シュタイナー教育に対する認知度の低さや、経済的・人的資源の不足など、運営に向けた課題も浮き彫りになっています。そのため、開園は時期尚早と判断し、延期を決断しました。

現在、目標の実現に向け、私たちは学び、成長することが必要です。これからも、支援や興味、関心、経済的な支援を提供いただける方々の協力が不可欠です。そして、これまで支援して下さった皆様には、引き続き応援いただけますようお願い申し上げます。

(文責：企画担当 / 石本さゆり)



親子クラス

♪こねーて、こねーて パンをつくりましょう♪



この歌とともに始まる親子クラスが始まってちょうど一年が経ちました。小さな手でパン生地をこねて、思い思いの形を作り、おやつパンを焼きます。パン焼きをしない時は、人参やお芋を切って野菜スープを作ります。おやつ作りを終えるころには、手も気持ちも温まり次の活動が始まります。

大人はその日の手仕事をしながら育児にまつわる会話を楽しみます。大人の間で和やかなムードが流れると安心して自由に遊び始める子どもたち。小さな自我が芽生え始める3歳前後の子どもたちは、おもちゃを取ったり、取られたりする事も多いですが、「終わったら貸して!」と、とても上手に言えるようになりました。大きい年齢の子たちは布や大型遊具を使ってお家作りし人形を使ってごっこ遊びを楽しみます。(つづく)



布巾でテーブルを綺麗にしたり、パン焼き用の粉挽をしたり、テーブル運びのお手伝いをしたり、小さい手はよく働きました。自分の手が誰かの役に立つという体験は、子どもたちの自信へと繋がります。そして、成長するのは子どもたちだけではありません。親御さんたちも、シュタイナー教育で大切にされていることを語り合う中で我が子を見る眼差しが変わったり、手仕事では初の棒編みでおもちゃ、にわとりや猫づくりにチャレンジしたり。作品ができると子どもたちは喜び、遊びに使います。これは親としても自信につながる嬉しい体験だったのではと感じています。

その他、親子で季節の歌を楽しみ、わらべうたで体を動かすことを体験し、人形劇を毎回楽しみました。一年を通して、継続的に参加して下さったご家族とは、人形劇でのお子様の誕生ストーリーでお祝いをできたことは、私にとっても喜びでした。大人も子どもも学びながら作るこのクラスがとても優しい場になったことは何よりも嬉しいことでした。

この1年、出会えた参加者のみなさんに心より感謝します。子ども時代がより幸せでありますよう、そして、親にとっても「育児」がかけがえのない喜びとなっていきますよう、お力になれたら嬉しいです。来年もこの輪がますます広がっていくことを願っています。(講師：石本さゆり)

農と暮らしの教室

「ぼかぼか」は、それぞれの手を、田んぼやお醤油桶、時には餅つき臼など、みんなの真ん中に出して、一緒に暮らしをつくっていく中で子どもも、大人も一緒に学び育ちあうことを願って生まれた「輪」です。(中略)一人ひとりが「自分らしさ」を持ち寄って、暮らしの輪の真ん中をぼかぼかあっためましょう。

ー初回の参加者への案内のことばです。

畦(あぜ)草刈り、畦塗り、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、ワラ仕事。月に一回集って輪をつくり、一緒からだを動かして、みんなで何かをなすとげる。人だけではなく、当日の・そして作業日までの天気、田んぼの水や土、すべてのものが一緒にはたらいで、多い時は21組46人、ひとり一人の体験がみんなの体験になるという豊かな時間を過ごすことができました。

また、「ぼこぼこ」では、しごとができるからだ・人と向き合うところが育っていく小学生に、からだをつくり・ところを整えるエクササイズや芸術活動を入れながら、田んぼで体験する動きや稲の育ちを振り返ることができました。徐々に、保護者の方とお子さんのようすを伝えあって、その子がその子らしくあるために、お互いの仕事を助け合えるようになってきたことも嬉しいことです。

田んぼの活動がひとまず終わり、冬の「ぼかぼか」は味噌や醤油などの仕込み・発酵を中心とした活動を行います。(つづく)



昨秋に企画したときには思いもよらないほど大きな輪となったこの活動、引き続き、田んぼでコミュニティを温めながら、小学生のクラスは来年度、土曜クラスという形、大人が子どもを真ん中においてともに仕事をする学校に向けて、次の形に入っていくことを考えています。体験した人たち一人ひとりの中で、そして輪全体として、冬の発酵を経て春にはどんな姿で現れるのか、楽しい「ぼこぼこ・ぼかぼか」です。(ぼかぼか・ぼこぼこ講師：田谷仁子)

英語クラス

英語クラスも開始してから一年が経とうとしています。

クラスでは挨拶からスタートし、そして始まりの詩、終わりの詩数々の歌、そして学習前のエクササイズやリズムのあるゲーム、手あそびやお話（人形劇）は全て英語で行われます。

最初は、意味がわからない言葉と感じていた子も、毎週毎週の繰り返しを通して、段々と耳が慣れ、口が慣れ、自分が発している英語のワードが、分からないけどなんとなく分かる、もしくは、わからなくても大丈夫。そんな安心できるムードの中で英語に浸る体験をととても大切にしてきました。

そして、アートを通しての文字体験、手や体を動かしながら英語圏が持つ文化体験や祝祭体験もクラスの中で味わってきました。来年は、もっと大きなクラスになって、よりダイナミズムのある活動ができたらと願っています。興味のあるお友達を大募集しております。（講師：石本さゆり）



大人の学び～っこ・読書会

学校づくりは、自分づくり。子育ては、自分育て。

子どもたちを囲む大人がまず幸せでなければ、子どもの幸せはつくれない、子育てをしあわせな時間に。

学校づくりが幸せな社会づくりにつながっていくことを願って、シュタイナーの人間観を学ぶ大人クラス「っこ」をはじめました。人間に備わる十二の感覚を丁寧に学んだ前期(9～11月)に引き続き、後期では「からだを育てる・こころを育てる・精神を育てる」の三本立てで、子どものこと・自分のこと・人間のことを学んでいきます。また、小学生クラス「ぼこぼこ」の間に、大人は別室での読書会をはじめました。「親の仕事、教師の仕事」という本をテーマに、一人ひとりの悩みや疑問、考えをわかちあっています。

子どものクラスに大人の笑い声が聞こえてきたり、大人の学びの時間に子どもの歌ごえが響いたり。お互いの学びを感じ合いながら、コミュニティが育っていることがとても嬉しいです。

(ぼこぼこ・っこ講師：田谷 仁子)



終わりにー2024年に向けて

昨年の「玄米餅deクラウドファンディング」にお寄せいただきました資金にて、自然素材の布やカーテン、木製の教具の購入及び、寄附品の運送費、建物の修繕費、庭に砂場をつくる材料費など、安全性と感覚をやさしく育む環境づくりのためおもに「夕日寺のおうち」の一階での幼児教育の環境を整えることに資金を活用させていただきました。

2024年は、「夕日寺のおうち」二階での小学部のための環境づくりを進めていきたいと考えております。具体的には、大きな黒板の板を購入し、黒板塗料をDIYし、子どもたちの学習を支える学習机と椅子を準備したいと考えております。

今回は、農と暮らしの教室で田んぼをお借りした農家さんからの寄付餅米による「玄米餅deクラウドファンディング」を1月21日(日)まで行います。必要額は30万円。現時点では45%達成中です。目標達成に向けて、どうか、皆様のお力添えをお願いいたします。



<https://hakusan-waldorf.org/fundingfor2024/>



**いよいよ小学部の教室づくり
2階に黒板、学習机、椅子を設置し
学びの場を整えます！**



2023年12月吉日

一般社団法人白山ウォルドルフコミュニティー同